

7/22 五 穂

レーダー配備 説明会

沖縄・北大東島 住民から不安

防衛省は20日、沖縄県の北大東島（北大東村）で、航空自衛隊の移動式警戒監視レーダー配備の検討状況について住民説明会を開きました。中国軍の太平洋への進出を踏まえ、「隠のない警戒監視」の必要性を強調。村有

地2カ所計8ヶ所を取得し、隊員30人程度が常駐する計画だと明らかにしました。南西地域の軍事要さい化の一環です。

北大東島は人口約560人で、沖縄本島の東方約360kmに位置します。伊豆諸島や小

笠原諸島を含む太平洋の島しょ部に固定式レーダーはなく、警戒監視の空白地帯となっています。

この声が上がり、計画具体化のプロセスが不透明だと批判する意見も出ました。防衛省側は配備時期を未定とし、環境調査を実施する考えを示しました。

村議会は2021年12月、自衛隊施設を誘致する意見書を採択。浜田靖一防衛相は今月14日の記者会見で、北大東島をレーダー配備の大東島をレーダー配備の「有力な候補地」と述べました。